

13	豊橋	○富士見小学校 幸小学校 野依小学校 植田小学校 新川小学校	野村伸幸 箕浦啓太 羽田野章子 松下涼子 二橋弘樹	南部中学校 東陵中学校 豊岡中学校 章南中学校	戸田浩世 鎌倉優樹 根木悠二 森 香
----	----	--	---------------------------------------	----------------------------------	-----------------------------

分科会番号	14	分科会名	特別支援教育
-------	----	------	--------

よりよい生活習慣を身につけ 活動に主体的に取り組む子どもの育成
—生活単元学習「やるぞ！ひまわりキャンプ！」の実践を通して—

1 主題設定の理由

本学級は知的障害学級で5名（1年生1名、2年生1名、4年生2名、5年生1名）が在籍している。初めてのことに苦手意識をもつ子どもが多いが、できることが増えると意欲的に活動しようとする子どもたちである。このよさをもとに、よりよい生活を送るための課題を設定し、学んだことを生活場面で生かす体験を増やしたり自己決定の場面を多くつくったりすることで、主体的にさまざまな活動ができるのではないかと考えた。

また、『知的障害のある児童生徒の学習上の特性としては、学習によって知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面で生かすことが難しいことが挙げられる。そのため、実際の生活場面に即しながら、繰り返して学習することにより、必要な知識や技能などを身につけられるようにする継続的、段階的な指導が重要となる。』とある。（特別支援学校学習指導要領解説・各教科など編P.34より抜粋）

上記のことにもとづいて、衣食住余暇の生活習慣に関わる課題を自分事と捉え、主体的に活動する動機づけとなるように「ひまわり組で学校キャンプを行う」ことを目標に設定したいと考えた。この目標をつくることで子どもたちは、この二日間をどう過ごしていくかを真剣に考え始めるだろう。「自分で決めることができた。やることができた」という経験を積み、子どもたちは自信をもって学校キャンプに臨んでいこうとするだろう。その中でどの子どもも普段の生活をより充実したものにしていこうとする素地ができると考えられる。

以上のことから、本研究の主題を「よりよい生活習慣を身につけ活動に主体的に取り組む子どもの育成—生活単元学習 やるぞ！ひまわりキャンプ！の実践を通して—」と設定し、実践することにした。

2 研究の内容

(1)めざす子どもの姿

よりよい生活習慣を体験的な活動で身につけ、意見を伝え合い、主体的に活動に参加することができる子

(2)研究の仮説

生活単元学習において、子どもにとって自分事となる体験的な学習活動を繰り返し、課題解決のために子どもたちが意欲的に取り組める場面や考えを整理する場面を仕組みば、そこで得られる自信をもとに主体的に活動に参加しようとする子どもが育つだろう。

(3)研究の手だて

〈手だて1〉体験活動を繰り返し取り組む機会の設定

生活習慣に関わる課題に対して自信をもてるように、実際に宿泊活動で行われる場面を想定し、体験活動に取り組む時間を設定する。実際に行われる活動を一度でなく繰り返し行うことで、子どもたちに生活習慣が身につくようにする。

〈手だて2〉体験をもとに自分の意見をもち、伝え合う場の設定

手だて2-① 子どもの「やりたい」を大切にしたい単元構想

意見をもつことが苦手な子どもであっても、自分が「やってみたいこと」「体験したこと」であれば、課題解決に向けて自分の意見をもつことができると考えられる。「やりたい」と思えるような体験を実際に経験する場を意図的に作り、意思表示をする機会を設ける。

手だて2-② 視覚支援を活用し合意形成を図る場の設定

視覚支援を取り入れた教材を活用し、場面に合った内容で感じたことや考えたことを仲間に伝えるきっかけとしたり、相手の伝えたいことを理解したりできるようにすることで、課題解決に向かっていけるようにする。

(4)抽出児の設定

A児（4年生）は、掃除や給食当番など決まった活動は、落ち着いて取り組むことができる。特別支援学級内では、低学年の手本になろうとはりきって活動する様子が見られる。苦手なマラソン大会に向けては、練習内容をスモールステップで設定し、努力によってタイムが上がっていくことで自信を深めた。また、雨の日に歩くことを怖がることもあったが、傘をさして雨の中を歩く練習を繰り返すことで、雨の日の登下校ができるようになってきた。意見を伝えようとする気持ちはあるが、的外れな話をしてしまうことがある。

来年度に野外活動があると言うと「楽しみ」と話す姿が見られた。しかし、話をよく聴くと今まで家族と離れて宿泊したことがなく、不安に思っていることがわかった。A児の保護者も「A児は宿泊が難しいだろうから、野外活動も修学旅行も泊まりはしないことを考えている」と話している。

(5) 単元構想図 (全34時間)

「うさ耳タイム」 おうちの中の仕事って何があるかな 「掘り起こし」

- ごはんを作るよ。
- 掃除や片づけだよ。
- お風呂の準備があるよ。
- 遊びに行く場所を調べよ。

「学活」 自分でおうちの仕事をできるかな 「掘り起こし」

- お母さんがいつもやってくれる。
- 料理はちょっと不安だな。
- お留守番のときは、別に何もしなかったよ。
- お手伝いしているよ。
- 5年生になると野外活動で自分たちだけでやらなきゃいけないのか。
- ひまわりのみんなと練習したいな。

ひまわりキャンプをみんなでしたいな

〔ひまわりキャンプではどんなことをするのか〕 ①

みじたく (衣)	しょくじ (食)	すごしかた (住)	たのしむ (余暇)
・服はどうしよう。 ・自分で着替えるよ。	・ごはんはどうするの。 ・みんなで料理を作るんだ。	・どうやって寝るの。 ・布団の準備もしなきゃね。	・キャンプファイヤーしたいな。 ・楽しいこといっぱいやりたいな。

キャンプまでにやることがわかったよ。ミッションをクリアするぞ

食 〔みんなで作るごはんは何にする〕 ②

・ウインナー食べたいな。	・卵焼きがいいな。	・おにぎり作りたいな。	・パスタがいいな。	・カレーが食べたいな。
--------------	-----------	-------------	-----------	-------------

おにぎりかパスタか迷うな

〔みんなで作ってみよう〕 ③～⑧ (③④実習⑤ふりかえり) (⑥⑦実習⑧ふりかえり)

・ごはんを炊くまでの時間が大変。 ・にぎるのはかんたんだったよ。 ・いろいろな具を入れておいしかったね。	・パスタは野菜を切るのが大変だ。 ・一度にたくさん作れるよ。 ・野菜とソーセージもおいしかったね。
--	---

キャンプで〇〇をつくりたいな

〔みんなが楽しめるお昼ごはんを決めよう〕

おにぎり ・おにぎりおいしいですよ。 ・ごはんがたくさんだったね。 ・パスタは包丁を使ったけど、おにぎりは使わないよ。	パスタ ・つつつるがおいしいね。 ・パスタの方が早くできるよ。 ・包丁を使って切るのが大変だったね。
--	---

お昼はおにぎりにきまったぞ。楽しみだな

〔夜ごはんのカレーライスの練習をしよう〕 ⑩～⑬

・おいしいね。	・野菜もたくさん入れようか。	・もっと練習したいな。
---------	----------------	-------------

夏休みもおうちで作る練習をしたいな

「うさ耳タイム」 夏休みの思い出を話そう

- キャンプに行ったよ。
- おばあちゃんとごはん食べたよ。
- 旅行に行ったよ。
- 山は寒かったよ。
- お手伝いで料理をつかったよ。
- 温泉に入ってきたよ。

「うさ耳タイム」 ひまわりキャンプでがんばりたいことをはなそう

- 楽しくがんばりたい。
- のこりのミッションをがんばりたい。
- 仲よくがんばる。

ひまわりキャンプのミッションをクリアしていきよう

衣 〔服は何を着ていけばいいのかな〕 ⑭～⑰ (⑭調⑮⑯練習話し合い)

・体操服かな。	・10月は秋だね。	・昼は暑くて、夜は寒いかもしれないね。
・半袖かな長袖かな。	・泊まる頃って何度かな。	

上着を脱いだり、着たりできるようにした方が安心だね。

住 〔寝るまでに何をすればいいのかな〕 ⑱～⑲ (⑱話し合い ⑲講話 ⑲練習) 本時 19/34

・寝る前は歯磨きしてるよ。	・お風呂はどうしよう。	・布団がいるよ。
・歯医者さんにしっかり磨いてって言われた。	・髪洗うの大変だな。	

歯磨き上手になったよ。 学校でも、泊まることができそう。

遊ぶ 〔何をして楽しもうかな〕 ⑳～㉒

・おにごっこをしたいな。	・どれくらい遊べるの。
・昼からは、けっこう遊ぶ時間ありそうだよ。	・雨の日はどうしよう。
・夜までいるから、キャンプファイヤーをしたいな。	・遊びの司会がいるよ。

準備のミッションクリアしたぞ。さあ本番。

〔ひまわりキャンプをしよう〕 ㉓～㉔

〔ひまわりキャンプをふりかえろう〕 ㉕

・楽しかったよ。 ・野外活動もできそうだよ。 ・お手伝いもつとがんばろうかな。

☆本単元で合わせた教科活動

☆家庭科/生活科 見つけてみようわたしと家族の生活/じぶんでできるよ

☆家庭科 調理実習

☆本単元で合わせた教科活動

☆家庭科/生活科 見つけてみようわたしと家族の生活/じぶんでできるよ

☆社会科/生活科 健康なくらとまちづくり

☆保健体育/生活科 毎日のけんこじぶんよ

〈手だて2①②〉
単元の見直しをもてるように、家庭生活での実体験を基に話し合う機会の設定

〈手だて1〉
昼食で自分たちが何を食べるのか決めるために、実際に調理の体験を繰り返し行う機会の設定

〈手だて2①②〉
調理体験を通して自分の意見をもった上で、話し合う機会の設定

〈手だて1〉
調理への自信を深めるために、カレーライス作りをする機会の設定

〈手だて1〉〈手だて2①②〉
身支度に自信をもてるように、気温に合わせた服の選び方について話し合ったり、実際に気温に合わせて着替えたりする機会の設定

〈手だて1〉〈手だて2①②〉
寝るまでの過ごし方に自信をもてるように、洗顔洗体の行い方についてお互いに見合ったり、話し合ったりする機会の設定

〈手だて1〉〈手だて2①②〉
余暇の時間の過ごし方を自分たちで考えるために、実際に遊んだり話し合ったりする機会の設定

3 研究の実践と考察

(1)掘り起こし 生活をもつめる〈手だて2—①〉

5月に行った話し合い活動のうさ耳タイムで「おうちの中の仕事って何があるかな」をテーマに意見を出し合った。ここで家庭にはさまざまな仕事があることを確認した。

後日、学級活動の時間に「自分でおうちの仕事はできるかな」と問いかけ、5年生になったら野外活動があり、親と離れて宿泊をすること、自分たちだけで生活をしていくことを伝えた。A児は「おうちの人と一緒にじゃないと、戸締り鍵閉めとかルールがわからない」と話していた。この後A児が書いたアンケートには楽しみな気持ちとできるかどうか不安な様子うかがえた。

ここで、野外活動の準備として、ひまわり学級のみんなで泊まることにし、そのために泊まるための練習をたくさんするのはどうかと提案した。すると、子どもたちは目を輝かせて「やりたい」と口々に言い始めた。わくわく！ひまわりキャンプ！」と銘打って活動を開始することにした。

(2)第1時 ひまわりキャンプでは何をするのかな〈手だて2—①②〉

第1時では「ひまわりキャンプではどんなことをするの」をテーマに話し合いをした。子どもたちは自分たちの経験から意見を出すことができた。A児も話し合いをもとに寝る前の過ごし方について考え、「パジャマに着替える。着替えもやらないと」とひまわりキャンプの過ごし方について考えることができた【資料1】。ここで生活習慣の基本である衣・食・住と余暇の様子をイラスト化したものを載せたワークシートに、家でやっていることをもとに4種類に分類させた。A児は友達の見え方やイラスト、自分の経験を頼りにどんどんワークシートに書き込んでいくことができた【資料2】。子どもどうしでお互いの意見を伝え合うとともに、衣を「みじたく」、食を「しょくじ」、住を「すごしかた」、余暇を「たのしむ」と、子どもにとって意味がわかる言葉に落とし込むことで、何をするのかイメージがもてた様子だった。また共通の目標意識をもてるように、これら「4つのミッションをクリアする」という合言葉にすることにした。A児はこの時間の振り返りで「しょくじのミッションをがんばりたい」と発言した。

【資料1】ひまわりキャンプについての話し合い

教師:家だとどんなことしてる?

A児:お母さんやおばあちゃんが洗濯やってる。

B児:ごはん作ってる。

C児:ゲームしてる。

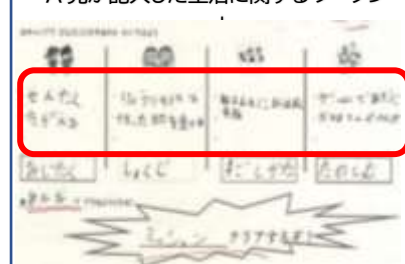
E児:寝る。

教師:寝る前は何かしないの?

A児:あ、パジャマに着替える。着替えもやらないと。

【資料2】

A児が記入した生活に関するワークシ



(3)第2時 みんなで作るごはんは何にする〈手だて2—①②〉

第2時から「しょくじのミッション」を開始することとした。「みんなで食事は何を作るのか」を考えていくと、子どもたちからカレーが一番人気になり夜ご飯とすることにした。次にパスタとおにぎりに人気が分かれたため、この2つを実際に調理実習で作り、どちらがお昼ごはんとして「おいしくてかんたんなのか」を考えていくこととした。A児は「火を使えるかな」と不安を漏らしていた。

(4)第3～5時 みんなでつくってみよう おにぎり〈手だて1〉〈手だて2—②〉

子どもたちが自信をもって活動に取り組む手だてとして、調理実習を行う手順をパターン化することとした。その上で作業に取りかかった。第3・4時では調理実習としておにぎりを作ることとした。おにぎりの調理工程を「①お米を洗う②ご飯を炊く③具を用意する④にぎる」の4工程に分け掲示した。この各工程終了時に、振り返りをしやすくするためにこまったシールを用意し、自分の感想を表現することにした。A児は「米をといでいるときに何回洗ったかわからなくなって困った」と話していたが、もう一度教えながら米を研ぐようにするとスムーズに研ぐことができた。

【資料6】A児が作成した新聞



新聞の感想欄には「りょうりを作ったり食べてもらったりすることができました。D児さんは『おにぎり作りはかんたんでした』と書いていました。みんなかんたんにできそうです。この新聞をかいてひまわりキャンプを成功させたい思いが強くなりました」と書いてあった。「かんたんにできそうです」と調理に自信をもてたことと、「思いが強くなりました」と主体的に活動に参加しようとする意欲の向上がうかがえる。

(5)第6～8時 みんなでつくってみよう パスタ〈手だて1〉〈手だて2—②〉

パスタの調理実習にも子どもたちが安心して取り組めるように、おにぎり作りと同じ流れになるようにした。するとA児は見通しをもって活動に臨むことができていることがうかがえた。また、パスタの調理過程のイラストを見ることでガスコンロを使用すること、包丁を使用することに気づき「おお、できるかな。でもがんばる」と挑戦しようと考えている発言もしていた。

(6)第9時 みんなが楽しめるお昼ごはんを決めよう〈手だて2—①②〉

この時間は、お昼ごはんをおにぎりとおパスタのどちらにするのか話し合いをした。「どちらがかんたんか」を判断する支援として、自分たちが調理をしているときの様子を動画で確認する時間を設けたり、誰が何の調理工程につまずいたか「こまったシール」で確認する時間を設けたりした。また、意思表示の支援として、二択で選ぶようにした。結果的に全員が自分の意見を話すことができた【資料3】。

A児は授業後に「パスタもおにぎりもみんなでおいしく作ることができて嬉しかった。家族にも作ってあげたい」と話し、調理作業に対して自信を深めるとともに、実生活に体験を生かして手伝いをしていこうとする意欲の向上がうかがえた。

【資料3】お昼ごはんについて全員が意見を話す

教師：パスタとおにぎりどっちが簡単か教えてください。
 A児：私はおにぎりの方が簡単だと思います。塩をかけて、ごはんを具をのせて、もう一回ごはんのせてにぎるだけだからです。
 C児：ぼく、おにぎり。ラップをひいておにぎりをにぎればいから。
 D児：私の簡単なのはパスタです。理由はゆでるのが一番簡単だったからです。
 E児：ぼくは2つ食べたい。
 B児：私はおにぎりを選びます。Dさんがラップを使うときに困っていたけど、クッキングシートでできたので簡単だと思います。

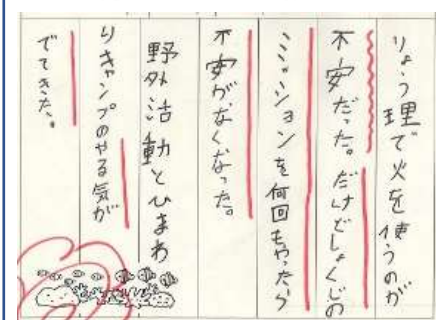
(7)第10～13時 夜ごはんのカレーライスの練習をしよう〈手だて1〉

カレーライス作りを行った。カレーライスは昨年度も作った経験もあり、包丁やコンロの扱いに慣れてきている子どもたちは自信をもって調理できている様子だった。

A児の食事作りにおける振り返りでは「りょう理で火を使うのが不安だった」とあった気持ちが、経験を通して少なくなり、「しょくじミッションを何回もやったら不安がなくなった」と記入することができた。繰り返しの体験により、調理に対する自信がもてたようだ。また、「やる気ができた」という記述からひまわりキャンプへ主体的に参加しようとするやる気が高まっている様子うかがえた【資料4】。

【資料4】

A児しょくじミッション振り返り



(8)第14～16時 服は何を着ていけばいいのかな〈手だて1〉〈手だて2—①②〉

第14時では、「服は何を着ていけばいいの」の課題に取り組みことにした。子どもたちから、「泊まる

【資料6】気温に合わせた着る服について話し合う様子

A児：お昼は暑いから半袖だけど、何度になるかわからん

教師：どうしたらいいかな

B児：朝とか寒くなるかもだから、上着も用意しておくといいよ

A児：あーなるほど。そうだね

きって何度位なんだろう」と疑問が出たため、タブレットで泊まる頃の気温について調べた。これにより、予想される最高気温と最低気温がわかった。このとき、気温に合わせてどんな服装がよいのかわかるイラストを提示し【資料5】、自分だったら気温に合わせてどんな服装を選ぶかイラストで考えることにした。A児は暑い日は半袖のイラストがいいとすぐに考えることができたが、朝夕の時間の服装をどうすればよいか迷っている様子だった。

ここで話し合いの時間を設けた。B児から「朝は寒くなるかもしれないから、上着を用意しておくといいと思う」という意見を聞くとA児は「なるほど、そうだね」と納得していた様子だった【資料6】。

A児はこの日の振り返りに「B児さんが言っていた朝は寒いから上着を着ればよいという意見を聞いていいと思いました。参考にしようと思います」と記入していた。

第15・16時では調べたことをもとに、気温ごとにどんな服装でいけばいいの、体験することにした。この日は9月でまだ気温が高い日が続いていた。太陽の日差しがある中(32℃程度)で、長袖、半袖それぞれでの服装で体感したり、日陰(25℃程度)やエアコンで最も低い温度に設定した環境(19℃程度)で、それぞれの服装を着てみたりをした。子どもたちは、調べたことをもとに、実際に気温に合わせて服を着たり脱いだりする体験をした【資料7】。振り返りより「ミッションをクリアしたら不安もなくなって楽しみがどんどんあがった」と記述があった。「どんどん」という表現から、A児は服装の選び方に自信をもつとともに、ひまわりキャンプの参加に向けて意欲を高めている様子うかがえた。

【資料5】

気温と服装の目安イラスト



【資料7】着替えを体験する子どもたち



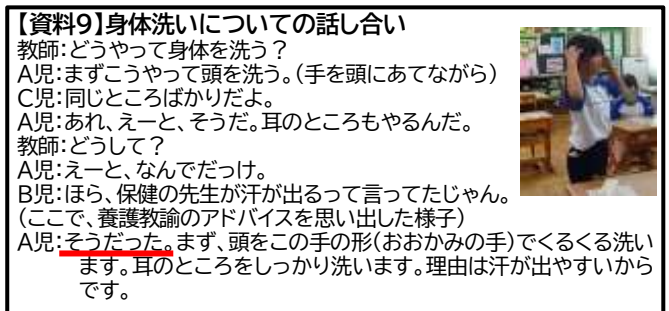
(9)第17～19時 寝るまでに何をすればいいのかな〈手だて1〉〈手だて2—①②〉

第17時では、寝るまでにどんなことをするのか話し合った。ここでも、体験していることとして家ででの過ごし方から意見を考えることとした。A児を含め子どもたちから、歯磨き、次の日の準備、お風呂に入ることなどの意見が出た。担任から「上手にできてそうかな」と問いかけると自信がない様子だった。ここで、ミッションとして養護教諭にポイントを教わり、歯磨きやお風呂の入り方について考えた。

昼食後や第18時に養護教諭に歯磨きのポイントや、身体のどんな所が汚れやすいのか、身体を洗うときのポイントを教わる時間とした。このとき養護教諭には児童がイメージをもちやすいように、歯の模型や映像を用意してもらったり、洗い方のポイントを実演してもらったりした【資料8】。

第19時はお互いの歯の磨き方や身体の洗い方をチェックし、話し合うこととした。このとき話し合いの支援として事前に毎給食後に行っている歯磨きの様子をタブレットで撮影しておいた。養護教諭から「えんぴつもちで優しく磨くこと」「止まらずに磨き続けること」を教わり、この視点でお互いの様子を観察した。C児、D児は映像を見ることで磨きが止まることのあることに気づき、「止まらない」と目標をたて、その後の毎給食後の歯磨きでは歯磨きをし続ける時間が格段に伸びた。A児はたまに歯ブラシの持ち方が変わってしまうことに気づき「えんぴつもちでがんばる」と目標をたて、その後実践を続けることができています。

身体洗いでは、担任が撮影した動画をもとに、どうやって洗えばいいのか、どんなところを念入りに洗えばいいのかを考えた。ここでA児は友達と相談しあう中で、洗い方の手順やその理由を言語化することができた。A児の「そうだった」の発言から、養護教諭の動作を根拠に意見を発表することができたことがわかる【資料9】。振り返りでは「ならったことをやる」と記述しており、すごしかたミッションを通してわかったことをもとに、今後の生活に活かしていきたいと思っている様子がかがえた。

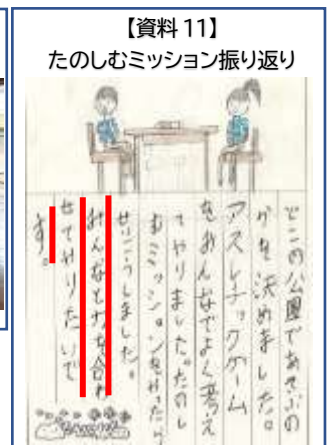


(10)第20～22時 何をして楽しもうかな〈手だて1〉〈手だて2—①②〉

第20時からは、たのしむミッションとして、どこでどんな遊びをしていくのかを決めることとした。

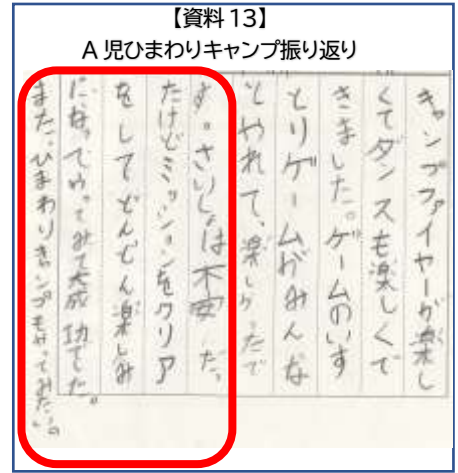
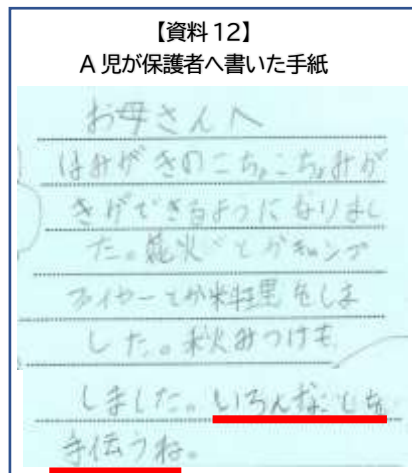
第21時は、体育館での遊び案について考え、実際にやってみることにした。子どもたちは、やったことのある遊びや、体育でやったことのあるものをもとにアイデアを出していくことができた。A児はフラフープを使って「ケンケンパ」をすることを提案した【資料10】。

たのしむミッションの振り返りの「みんなと力を合わせてやりたいです」から、A児を含め子どもたちのキャンプへの思いが、具体的な改善点を話し合う動機となったと考えられる【資料11】。



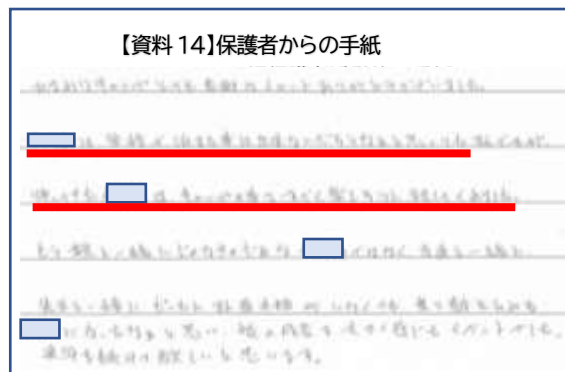
(11)第23～33時 ひまわりキャンプ本番

本番では学びを生かし、楽しく活動することができた。最後に保護者に対して思ったことを書く時間とした。A児はキャンプの成功や、体験してきた自信から、家でも「いろんなことを手伝うね」と伝えていた【資料12】。学校で学んだことから自信が生まれ、家庭での実生活に活かしていこうとするA児の主体的な気持ちが育まれていることがうかがえた。これらの活動を全員元気に全うし、ひまわりキャンプを閉じた。A児はキャンプの振り返りに「ミッションをクリアをしてどんどん楽しみ」になり「大成功でした」と体験や意見を伝え合う活動を繰り返すことで自信が増していき、自分で成功できたと感じることができた【資料13】。



(12)第34時 ひまわりキャンプ振り返り

後日、保護者に子どもたちが書いた手紙を渡すとともに、今回のひまわりキャンプを通して感じたことを保護者に返事の手紙として書いてもらった。手紙からA児保護者は「A児は学校で泊まる事は出来ない」と思っていたが「帰ってきたA児はキャンプのことをすごく楽しそうに話し」ている姿を見て、A児が成功体験をしたことを保護者も感じていることがわかる【資料14】。



4 手だての有効性の分析

(1)体験活動を繰り返し取り組む機会の設定〈手だて1〉

衣食住余暇の生活習慣に関わる体験を繰り返し取り組む機会を多く設けてきた。食に関しては調理工程をパターン化したことや、こまったシールを通して繰り返し調理活動に臨むことで「りょう理で火を使うのが不安だった」とあった気持ちが、経験を通して少なくなり、「しょくじミッションを何回もやったら不安がなくなった」と【資料4】に記述してあることから活動を繰り返し取り組むことによって自信が深まったと考えられる。衣に関してA児は調べたことをもとに、実際に気温に合わせて服を着たり脱いだりする体験をした【資料7】。振り返りに「ミッションをクリアしたら不安もなくなって楽しみがどんどんあがった」と記述があった【資料13】。「どんどん」という表現から、調べることに加え体験することを繰り返すことでA児は服装の選び方に自信をもつことができたと言える。このことから、自分事となる体験的な活動を繰り返し行うことは、よりよい生活習慣を身につけることに有効であったと考える。

(2)意思表示の経験

① 子どもの「やりたい」を大切に単元構想〈手だて2-①〉

単元を通して家庭での経験、もしくは実際にやってみた上で自分の意見をもつようにしてきた。普段は意見をもつことに苦手意識がある子どもも、自分がやったことに対しては自信をもって発言をすることができていた。また、「やりたい」という思いを大切に単元をすすめてきた。A児は見通しがたっていない状態だと不安な様子が見られたが、担任から「試してみようか」「やってみるか」といった声かけをすると安心したように「やりたい」と口にしていった。A児はたのしむミッションにおいて、体育館でアスレチックを作りたいという思いを強くもち、仲間たちに思いを伝えていた。体育館で自分がやりたい遊びのアイデアを出すことに加え、仲間が提案した遊びに対して「すごく楽しそう」と声に出し、学級みんなで成功させたいという意欲に満ちた姿を見ることができた【資料10】。また、【資料11】振り返りの「みんなと力を合わせてやりたいです」から、A児を含め子どもたちのキャンプへの思いが、具体的な改善点を話し合う動機となったと考えられる。主体的に活動に参加できるようになるための手だてとして、子どもの「やりたい」を大切に単元を構想し、体験をもとに意見をもたせるという手だては、自信をもたせるために有効であったと言える。

② 視覚支援を活用し合意形成を図る場の設定〈手だて2-②〉

本単元では、関わり合いを通じて、お互いが成長し合い認め合うことに子どもたちは喜びを感じ、自信を深めている様子が見られた。おにぎりにしようかパスタにしようか話し合ったときには、調理をする様子を撮影し客観的な映像をもとに話し合いを行った。活動の難しさをこまったシールを用いて視覚化することで自分の考えをもって発表することができた。A児は自分が作りたい食べたいという思いに加えて「D児がラップを広げるときに困っていたけど、クッキングシートを使えばおにぎりをにぎることができた」と、仲間の変化に気づくことができた。低学年の子どもも含め全員が楽しめるようにしたいと考える姿を見ることができた。また、イラストを用いた掲示物やワークシートを用意し、自分がしてきた活動を振り返りやすくしたり、見通しをもって活動を行ったりできるようにしてきた。これらの視覚支援によって、自分と相手の考えを考慮して意見を伝え合おうとすることができたと考えられる。みじたくミッションにおいて、数字だけでは実感しにくい内容もイラストをもとに考えていくことによって、自分の考えをもったり【資料5・6】、B児がイラストカードを見て気づいた意見から「B児さんが言っていた朝は寒いから上着を着ればよいという意見を聞いていいと思いました。参考にしようと思います」と仲間の意見をもとに考えを深めたりする様子を見ることができた。視覚支援を取り入れた教材を活用することにより課題解決に向かっていく姿を見ることができた。以上のことより、この手だては有効であったと言える。

5 今後の課題

ひまわりキャンプと銘打ち、学校に宿泊する活動は子どもたちにとってとても大きなモチベーションとなり、単元を通して主体的に活動できる原動力となった。本単元を通じて体験を通して学んだことがA児にとって自信になり、保護者に送った手紙にも「いろんなことを手伝うね」と書くことができた。実際に手伝うことが増えたり日々の生活を丁寧を送ろうしたりする姿が増えた。よりよい生活習慣を身につけるとい目標を掲げ活動をすすめていく中で、学級みんなで協力しあう姿を見ることができた。その上で1年生から5年生まで学級に在籍し、課題が一人一人違うといった状況がある。よりきめ細かく一人一人を見取り、適切な課題や目標を設定することを今後の課題としたい。